

<p>教区御遠忌テーマ</p> <p>今、いのちがあなたを生きている</p> <p><b>流罪からの出発</b></p> <p>—私はどこで生きているのか—</p>	<p>高田教区報</p>		<p>御遠忌特集号</p> <p>発行所 上越市寺町2丁目24-4 真宗大谷派 高田教務所</p> <p>編集 響流編集委員会</p> <p>発行 杉本了恵</p> <p>印刷 サクラ印刷(株)</p>
--	--------------	--	---



四月二十八日結願日中 第七組団体参拝

御遠忌特集号

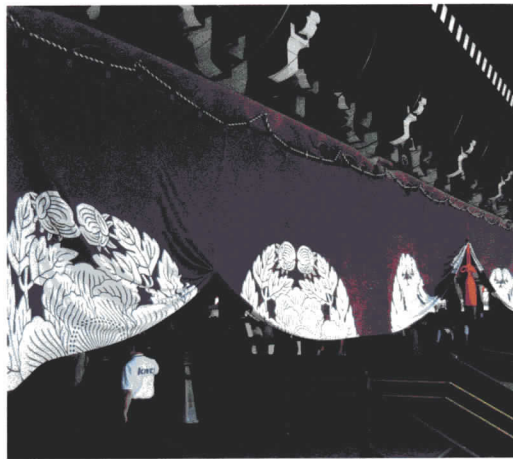
宗祖親鸞聖人  
七百五十回御遠忌法要



阿弥陀堂素屋根3階より白洲を眺める



## 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌 第二・三期法要



### 御遠忌法要に参詣して

第四組 西勝寺 江口 章子

待ちに待っていた宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌も終わりました。私は四組の団参の一員として四月に参詣いたしました。五十年に一度の御遠忌、私にははじめての御遠忌参詣でした。三月の震災により当初の計画を変更しての法要ということでしたが、莊嚴をはじめ、参詣者への懸念に動き回りお世話くださる姿に感激いたしました。御影堂での指定席は、残念ながら一番端のうしろ



の方で、法要の成り行きはすべてモニター越しでしか見られませんでしたが、しかし以前、「その場に身を運ぶ」ことが聞法の一步なのだと思えていただきました。どんな場所であれ、御影堂の中に身を置き、共に読経し、法話をきく。その場においてしか感ずることのできない貴重な経験です。帰路のバスの中で、お互い初対面だった門徒さん同志が、「今度はお寺で会いましょうね。」と話し合っておられました。

一緒に御遠忌に参詣した経験は、どんな研修会にも劣らないすばらし

い研修の場だったのかなと、この門徒さんのひとりで感じられ、改めて困難はあったけれど、御遠忌法要が勤修されたことに感謝いたします。

### 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要に参加して

第三組 應満寺門徒 小池 憲夫

この度、結縁あつて高田教区の皆様のお仲間に加えていただき、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要に参加できましたことに、たいへん有り



難く、感謝を致しております。

計画に！準備に！実行にと、ご尽力賜りました引率スタッフの方々に、厚くお礼申し上げます。

今回、参加を望んだ理由は、両親

(妻の両親共々)を葬送し、仕事も現役を退いた今、これから何を目標に！何を心の支えにと！迷っていた矢先に御遠忌法要のお話がありました。

はたして私のような凡愚な輩でも同道させてもらえるのかと申し込みを躊躇していたのですが、五十年に一度の法要であり、この機をのがしては後々悔いが残るとの思いと、日頃あまり一緒に歩いたことのない糟糠の妻への改悟の念もあり、二人で申し込んだ次第です。

久し振りの京都でしたが、特に東本願寺は学生時代に修学旅行で寄らせていただいて以来、まさに五十年振りでした。

堂塔伽藍の大きさ、清浄閑静な佇まいには身の引き締まる思いが致しました。とりわけ、御影堂での大勤行の莊嚴な雰囲気には、心が引き込まれ、煩惱が洗い流され、救われた心地になったのは私だけではなかったのではと思っております。

さて、後談ですが、妻はあれ以来、我が家のお内仏の前で、朝な夕な永い時間を合わせております。

私はと申しますと、相変わらず煩悩多き愚鈍な日々の繰り返しです。





4月27日 結願逮夜



法中室（出仕者控室）

### 日だまり 水たまり 法中だまり

第一組 正覺寺 井伊 光紉

機会がありまして、今回の御遠忌  
第二期、第三期それぞれ後半に出仕  
する事が出来ました。

いつも出仕されている方々が、「や  
あ、待っていましたよ。」と声をか  
けてくださいます。

本山に出仕し始めて早十数年とな  
ります。初めの内は不安と緊張の連  
続でした。

法中だまりでは、出席確認と、装  
束および着衣の点検を受け、法要座  
次順に並んで出仕します。また、声

明、装束、法要儀式等に大変くわし  
い方々が居らして、色々な事を教え  
ていただきます。時には「それは末  
寺では必要ありません。」と軽くあ  
しらわれる事もあります。  
とにかく厳しい中にもなごやかな  
法中だまりは、出会いと学びの場で  
あります。  
御遠忌に、それぞれの思いと期待  
とをもって出仕されていますが、法  
中だまりの雰囲気は、いつもと変わ  
らない中にもどこか御遠忌に出仕で  
きた喜びと誇りがほのかに漂ってい  
ました。



バスの見送り（御影堂門前）



# 子ども御遠忌奉仕団

教区御遠忌讃仰事業の一つである「子ども御遠忌」に参加するため高田教区青少年連絡協議会（主任 大滝法円）が中心となり「子ども御遠忌奉仕団」を組み、去る五月三日〜四日の一泊二日の日程で、参加者スタッフ合わせ、二十一名で参加してきた。

また、高田教区青少年連絡協議会は「雪の国からこんにちは！」をテーマに、池の平から雪を運び、全国から集う子ども達に雪に触れてもらう事を通じ、参加者との交流を愉しんだ。



子どもたちで作成した打敷



高田教区御遠忌奉仕団





# 教区御遠忌讃仰事業（展示）ブーンス

三月十日早朝、雪の振り続く高田別院会館を後にして、完成した「尾神獄殉難」のジオラマを携え、搬送用トラックと伝道車の二台総勢四名で一路京都へ向け出発した。



何せ、破損させられない大事な輸送だったので、慎重な上にも慎重を期す運転だったのだが、道中は順調で、午後一時には本山に到着し、高田教区その他の展示も含め、閉門の時間までにはほぼセッティングを終了した。

翌日に多少の手直しをしたものの、午前中ですべての作業を終了し、昼食をとった後、高田へと引き返した。その途上、福井県南條SAで休憩をとった際に遭遇したのが、あ



「東日本大震災」を報道するTVに群がる人々だった。

軽食コーナーには五十人近くの方々がいたのに、息をすることを忘れたかのようなあの静けさはおそろしく一生忘れないだろう。

この事の前からいささか調子の悪かったトラックが十分に警告灯を点灯させ金沢で修理にメーカーの工場に立ち寄りたりして、日付が変わる前によくやく高田に帰ってきた。

本来なら、その足で第十二組主催の「報尽碑の研修」に参加し、翌日雪道を歩き報尽碑に参拝する予定にしていたが、我々の方で何かあつて、救助を求めている被災者に救援の手が届かないことがあつてはなら



尾神獄殉難の跡を訪ねて

ない、と中止になったのは、賢明な判断だったと思う。

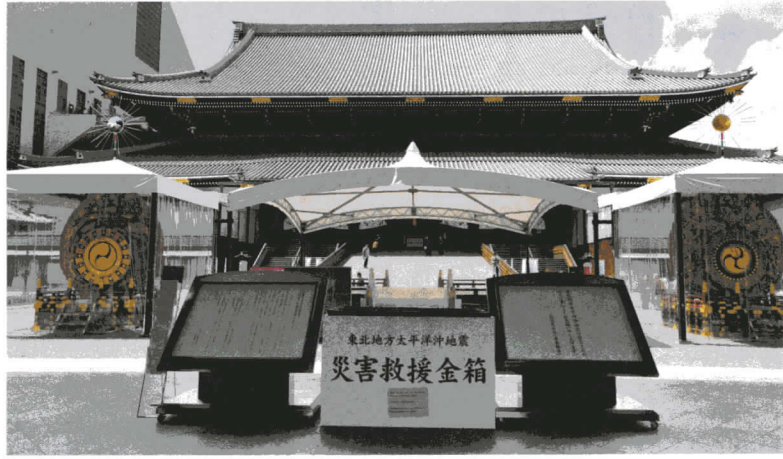
末筆になったが、「尾神獄殉難」のジオラマは御影堂と阿弥陀堂をつな

ぐ渡り廊下に毛綱、大樫と一緒に常設展示される運びとなった。京都へ上山の際には是非ともご覧下さい。





# 東北地方太平洋沖地震災害 被災者支援のつどい



## 被災者支援のつどいに参加して

第十二組 善徳寺門徒 高浪 浩

去る三月二十一日〜二十三日に善徳寺、福正寺両寺の引率で「被災者支援のつどい」に参加してきました。ご存知のとおり、三月十一日に発生した「東日本大震災」で御遠忌が開催されるの心配でしたが、「被

災者支援のつどい」に看板を掛け替え、「すべての被害を受けた方々と思いを共にする」との開催趣旨をお聞きして、何の心配もなく京都市きを決めました。

本山にお参りしてまず感じた事は、バスの到着から見送りまで、笑顔をやさず職員の方々が親切に接してくださり気持ちが良かった事です。なかなか出来る事ではないと妻と感心しきりでした。

法要も厳かな中にも、被災者を思いやる気持ちのこもった素晴らしいものでした。また、親鸞聖人回心の地である六角堂に参拝することができたのも大きな喜びでした。観光中に偶然、元関取の舞の海さんに出会えたのもいい思い出になりました。

このようなご縁を作っていただいたお寺さまに感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

『響流』編集委員会からの依頼原稿、並びに、お寄せいただいた原稿については、漢字の使い方・言いまわし等、できる限り執筆者の表現を尊重して掲載させていただいております。



勤行 (被災者支援のつどい)

## 東北地方太平洋沖地震 高田教区救援金の御礼について

現在、各寺院を通してお願いしております東北地方太平洋沖地震の高田教区救援金については、6月末現在で、下記のとおり協力いただきました。

ここに、御礼を申しあげるとともに、引きつづき、救援金の勧募をよろしくお願いします。

429万5,410円 (2011年6月30日現在)



寒さでカイロを配る宗務役員





# 高田教区の日

第八組 延壽寺 鷲嶺 紀文

「私たちは、四月十五日の、高田教区の日」を宗祖の御流罪と尾神嶽殉難をもって讃仰します」と書いた「高田別院だより」第二十二号が発行された（三月十日）翌日、東北地方を襲った大津波により日本中の生活が一変しました。

引き続き福島原発事故という未曾有の災害の中で御遠忌の第一期法要が「被災者支援のつどい」に変更され、教区でも事態の推移を見守るなか、「高田教区の日」を中止するという決断に至ったことであります。

しかし、その後、計画の一部を継承するかたちで、四月十七日「高田別院春の法要」日程の半日を「高田教区の日―東北地方太平洋沖地震被

災地に思いを馳せ、被災者とともにあることを確かめ合う集い」として開催することができました。

当日は、外陣出仕の勤行、あいさつの後、仙台教区仏青委員長 佐々木道範さんの被災地からの報告、井上 円氏（第十三組浄泉寺住職）による講演「流罪からの出発―私はどこで生きていくのか―」を聴講しました。

井上氏からは、今回の大震災にかかわって「共に支えられていることに立った支援」ということについて『恵信尼消息』を読み解きながら、念仏者の支援の在り方を考える視点をいただきました。



井上 円 氏



佐々木 道範 氏





# 高田教区震災支援有志会活動報告

## 高田教区震災支援有志会代表

金子 光洋

四月九日から六月十七日までに計五回の活動を行った。初回は支援物資の輸送と現地視察、三回は炊き出しと現地視察、一回は陸前高田市に於いて津波で流された松の木を薪にし、それを売り、復興支援金に充てる薪作り作業(六月五日付読売新聞の一面に掲載)

現地からの帰り道。私たちにできることは、ほんの些細なことではないとも思う。たかが二日、三日間で上越―東北間の往復。せいぜい炊き出しをしても昼と夜の二食程度でしかない



5/11 女川 保福寺(避難所)での子どもたち

い。帰ればまたいつもの生活が待っていると思っっている。現地の人はずいぶんうわけにはいかない。それをわかりながら、いつも温かく迎えてくれる現地の人。少し緊張しながら申し訳なさそうにしている私たち。だけど不思議と居心地がいい。東北の語り口で話されると何を言っているのかさっぱりわからないことが多い。



6/16 寄磯小体育館(避難所)での念珠づくり

言葉はわからないが、表情がすべてを語っている。笑顔、怒り顔、泣き顔。先日、現地の人から「ウニをとって来たら食べてくれ」と言われてウニをよべられた。今迄に食べたことがないくらい美味かった。何も無いけどこれくらいはできると言ってもなしてくれる。感謝。 現地の人との交流が私たちの緊張を和らげてくれる。だから迷惑をかけながらも精一杯のことを私たちはやる。

それと忘れてはならないのは、現地とのコーディネートをしてくれる仙台仏青、炊き出しの準備をお手伝いくださった坊守会と若坊守会の方々、月参りに行った際カンパや物資を下さる御門徒が私たちを現地に押し出してしてくれる。来ることは叶わないが多くの人が現地の方を応援していることを伝えることもまた私たちの使命だと感じる。

もいるかもしれない。これからが本当に人が人として生きていくことの決断を迫られる時期ではないだろうか。物資面も大きく必要になるだろうが、ともすると、復興の段階でいうと私たちは避難所よりも仮設住宅、仮設住宅よりも自宅という住む場所によって良し悪しを判断してしまいがちになる。しかし決してそんなことでは判断できるはずがない。一人ひとりにおいて境遇が違うということを確認しなければならぬ。難しいかもしれないが、面と向かって一言でも会話を交わしていくことが重要になるだろう。

さて、現地の状況はというと、場所によつてかなりの差はあるが瓦礫も撤去され仮設住宅を見かけることが多くなってきた。それでも未だ避難所や自宅避難されている方は多い。勿論仮設に移り住む人もいる。場所や復興の段階によりかわり方が変わってくる。仮設住宅にな

私たちが何ができるのだろうかというところも考えている。高田



6/16 女川地区

一人ひとりも、とりが、見えにくく、ついで、今までのストレスや孤独感が一気に噴出し、それを受けとめきれずに自ら命を絶つ方

田有志会メンバーは考えるよりも行動することに重きを置いている。とりあえず現地に行き感じたまま動いていくということには変わり無い。これから何度現地に行けるかはわからないが、かわり続ける大切さを有志会メンバーが感じている。



全国から仙台空港へのメッセージ



# キッズふくしま サマーキャンプ インタカダー二〇一一年

原子力発電所の事故により、大きな不安を抱えながら毎日を過ごさざるを得ない福島の方々。避難を余儀なくされる子どもたち。私たちは、この子どもたちを高田教区に招き、時間をともにしたいと思います。

この企画は、おそらくは家族や友達と過ごし、楽しい夏休みの思い出を作ったであろう子どもたちに、高田教区でそのことを為していただくということに留まらず、私達大人がある意味、無批判に現代の生活を甘受し、原子力発電の持つ危うさを無視してきたことへの懺悔でもありません。

福島の子どもたちと過ごすことをとおし、彼ら、彼女らの故郷の人々と共にあることを確認し、生きることのすばらしさと苦しさを確かめ合いたいと思います。

## ホームステイ 協力寺院募集



池の平青少幼年センターにて

期間 二〇一一年八月二日(火)～二〇一一年八月六日(土)

場所 二日～四日 協力寺院  
(ホームステイ)

四日～六日 池の平青少幼年センター

募集人数 四〇人

対象 四年生以上の男女小学生

主催 「キッズふくしま サマーキャンプ インタカダー二〇一一年」実行委員会

―二〇一一年―

(委員長 老野生 淳一)

### 日程

	8/2(火)	8/3(水)	8/4(木)	8/5(金)	8/6(土)	
7:30				起床・朝の集い	起床・朝の集い	
8:00	福島出発			朝食	朝食	
8:30	【バスで移動】	それぞれのホームステイ先で日程を過ごします		《出発準備》	お別れの会	
9:00			宿泊先発	笹ヶ峰へ出発	《出発準備》	
9:30				【路線バスで移動】	センター出発	
10:00				①日本海で泳ごう (海水浴)	トクサ川到着 (川遊び)	【バスで移動】
				②リージョンプラザ (プール)		
12:00	昼食			昼食	昼食	昼食
13:00			高田別院到着	センターへ出発		
14:00			センターへ出発	【路線バスで移動】		
15:00	高田別院着		【電車とバスで移動】	センター到着		
			センター到着	すいか割り		
16:00	宿泊先到着		オリエンテーション (日程説明・自己紹介)	休憩・自由		
16:30	それぞれのホームステイ先で日程を過ごします。		スプーンを作ろう	絵日記を作ろう		
18:00			ウエルカムパーティ	宿題タイム		
19:30			花火大会	みんなで夕食準備	福島に到着	
20:30			温泉に入ろう	バーベキューパーティ		
21:30			就寝	ボンファイヤー		
				温泉に入ろう		
				就寝		

※ 日程は変更することがあります。

ホームステイにご協力いただける寺院がございましたら、七月二十日までに、高田教務所(〇二五―五二四―三九一二)まで連絡ください。



### 宗務役員衣体寄贈の御礼

宗祖の御遠忌にあたり、第七組西蓮寺住職 桃井正尊氏より、宗務役員衣体（五条袈裟・写真）を寄贈いただきましたので披露いたします。誠にありがとうございました。



### 完納御礼

二〇一〇年度宗派経常費（相続講金・同朋会員志）を御進納いただき誠にありがとうございました。

ここに、完納いただきました御寺院名を御披露し、御礼にかえさせていただきます。

#### 第二組

來遊寺

#### 第三組

徳常寺

#### 第四組

願浄寺

#### 第五組

林覺寺

#### 第八組

常光寺

#### 第十一組

圓重寺

#### 大嚴寺

#### 第十二組

明源寺

#### 第十三組

聞名寺

（二〇一一年一月二十一日）

（二〇一一年六月三十日）

以上十五カ寺

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌御修復懇志金御依頼額を完納いただき

誠にありがとうございました。

ここに、完納いただきました御寺院名を御披露し、御礼にかえさせていただきます。

#### 第八組

常光寺

（二〇一一年二月二十八日）

（二〇一一年六月三十日）

以上一カ寺

#### ●おぐやみ申しあげます

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

第六組 淨國寺 前坊守 山崎 睦

第七組 西谷寺 坊守 親跡 啓子

第十一組 圓重寺 前住職 大滝 圭圓

第十三組 船入寺 住職 細井 弘光

#### ●おめでとうございます

#### ◎教師補任

第一組 廣傳寺 塩谷 良和

第二組 善正寺 上宮 崇

第三組 明通寺 小山 誠一

第五組 蓮光寺 土屋有爲子

第六組 等正寺 稲清水一美

第七組 正教寺 宮尾 君子

第七組 西蓮寺 桃井 肖章

第八組 延壽寺 鷺嶺三代子

第八組 大嚴寺 長尾 厚子

第八組 蓮休寺 澤村惠美子

第八組 慈圓寺 矢島 透

第十一組 福樂寺 井上 寿法

第十三組 照專寺 内山 耕平

第十三組 養法寺 松岡 貴徳

#### ◆こもれび◆

今回の『響流』は御遠忌特集号と銘打っておりますが、御遠忌関連と東北地方太平洋沖地震の被災者支援に關しての記事が主になっています。

私自身も三月・四月に上山し、被災者支援のつどいと御遠忌法要の両方に参拝させていただきました。特に三月の被災者支援のつどいの時は極寒の参拝でしたので、今回の地震や津波で被災された方々は、想像を絶する厳しい生活を余儀なくされておられることに思いが至り、自然と手が合わされました。もし親鸞聖人が今の時代におられたならば、きっと被災された人々に寄り添い、ともにご苦労されたことでありましょう。それを思うと、御遠忌と被災者支援のつどいは別のものではなく、今回の地震災害を通して自らの生き方を問い直し、人々と共にあることの大切さを教えられる真の御遠忌がここにあると感じました。（渡辺）